

障害者ホーム建設支援を

岩見沢市上幌向にある障害者の通所施設「こくわの里」の運営母体の社会福祉法人「こくわ福祉会」(岡田健二理事長)のチャリティー絵画展が3日から5日まで、JR岩見沢駅横の同市コミュニティプラザ2階ホールで開催される。障害者の生活の場となるグループホーム建設の財源づくりが目的で、2日には絵画展の中心となる作品を出しているスペインの画家ミゲール・ペイドロさん(62)も岩見沢に入り、期待を語った。

岩見沢でチャリティー絵画展 きょうから

こくわの里は1984年7月に設立され、来年で30年目を迎える記念と、障害者の生活の場となるグループホーム建設の財源をつくるために、実行委員会を組織しチャリティーの「現代国際巨匠絵画展」を開くことになった。

こくわの里は1984年7月に設立され、来年で30年目を迎える記念と、障害者の生活の場となるグループホーム建設の財源をつくるために、実行委員会を組織しチャリティーの「現代国際巨匠絵画展」を開くことになった。

絵画展には、ペイドロさんの

チャリティー絵画展に出す自らの作品を前に期待を語る。ペイドロさん



ペイドロさんは、スペイン南東のバレンシア州アルコイ出身

スペインのペイドロさんら出展

で、主に同国北東部のピレネー山脈や北部アストゥリア州などで秋に風景画を描いている。展示される作品も、赤と黄色が印象的な紅葉の時期の、渓谷、湖沼などを描いた油彩の風景画が中心だ。

ペイドロさんは岩見沢周辺の紅葉に感激し、「いい時期に来た」と話し、今回の絵画展について「芸術家として、絵を見る人の反応を見ることができ、さらに慈善のために支援できれば、二重のうれしさです」と期待を表した。

岡田理事長は「障害者が生活できる場として、ホームを消費税率の上がる前の来年度中には建設したい」と話し、来場と協力を呼びかけている。

絵画展は5日までの午前10時～午後6時。ペイドロさんによる絵画のワークショップやサイン会なども予定されている。

こくわ福社会 あすから絵画即売 念願のケアホーム資金に



岩見沢 巨匠作品120点展示

【岩見沢】市内上幌向の障害者通所施設「こくわの里」を運営する社会福祉法人こくわ福社会(岡田健二理事長)は3～5日、「現代国際巨匠絵画展」を市コミュニティセンター(有明町南1)で開く。同法人は利用者の居住の場となるケアホームの建設を目指しており、売り上げの一部を建設資金に活用する。

(坂本有香)

こくわの里は現在、10～40代の18人がクッキーなどの製造に励んでいる。利用者からは、以前から「ゆくゆくは親元を離れて暮らしたい」との声があった。だが、市内の障害者向けグループホームなどは空き待ちの状態が続いているため、こくわの里開設30周年に合わせ、ホームの建設を決めた。

絵画展では、スペース、絵画展の成功を目指し、歌の練習など準備に励む利用者たち

ンの画家ミゲル・ペイドロさん(62)の油彩画60点を中心に、ピカソやシャガールの版画、

(坂本有香)

東山魁夷の日本画など練習に連日励んで計約120点を展示即売。売り上げの1割が建設資金と東日本大震災の義援金になる。

会期中は、特別ゲストでペイドロさんが来日。利用者は2日夜の歓迎会で披露する歌の時。入場無料。

石田ルミ江施設長は「障害を受けているも当たり前暮らしている場所をつくりたい」と多くの来場を呼びかけている。3日間とも午前10時～午後6時。入場無料。